

福祉経営コンサルティングレポート

テーマ

第 033 号

平成 23 年 11 月 2 日(水曜日)

「業績の分析からみる 変化の兆し」

発行 株式会社 経営開発センター
TEL(079)-285-0850 FAX(079)-285-0717
ホームページ : <http://www.kei-kai.com/>
Email : info@kei-kai.com

新年度が始まり早いもので上半期が過ぎました。皆様の法人の業績はどうだったでしょうか。当期実績が前年同期に対しどうだったか。予算に対しどのように推移しているかなど、気になる時期ではないでしょうか。今後の健全な経営を確保するためにも、業績の分析から変化の兆しをとらえていくことが重要なポイントです。そこで、今回は経常収入にポイントをあて報告させていただきます。

【予算進捗率・前年比を確認】

現在の状況を確認する方法として、上半期の数値を当年度予算・前年度実績と対比させる方法があります。その際の注意する会計処理と目安値を紹介させていただきます。

項目	注意する会計処理	目安値
予算対比	発生主義で計上	進捗率 50%
前年対比	前年と同じ会計処理	前年比 100%

経理区分間・会計単位間繰入金、寄附金等の特別な収入は除くようにしてください。

【傾向と原因の確認】

収入の中味を分析すると、何らかの変化の兆しが見つめ業績向上へのヒントになるかもしれません。期首から半年間までの累計はどうか？増減は一時的なものか？を確認していただくことにより当期の傾向がみえてきます。

傾向	分析内容
増加している場合	期首からの半年間で増加傾向であれば良いのですが、それで良しとせず、外部環境の影響による偶発的・一時的なものなのか、利用者数の拡大などその要因は何であったのかを分析してみてください。
減少している場合	減少しているから良くないとも一概にはいえません。例えば収支差額を改善するために、不採算部門の休止を行った等、経常収入が減少したといえども、単純に業績の低下とはいえないケースもあります。減少している原因を正しく分析することが必要です。

また経常収入のみならず、収支差額についても同様に増減状況と原因分析を行い、業績の総合的判断をするように心掛けてみてください。

次年度は介護報酬、自立支援費の改定により法人業績への影響が懸念されます。今回の分析を活用し、変化の兆しに気づいたら、それを次の一手にいかしてみたいかがでしょうか。

今後の皆様のますますのご発展を心よりお祈りしております。

株式会社 経営開発センター 福祉経営部 稗田 修生